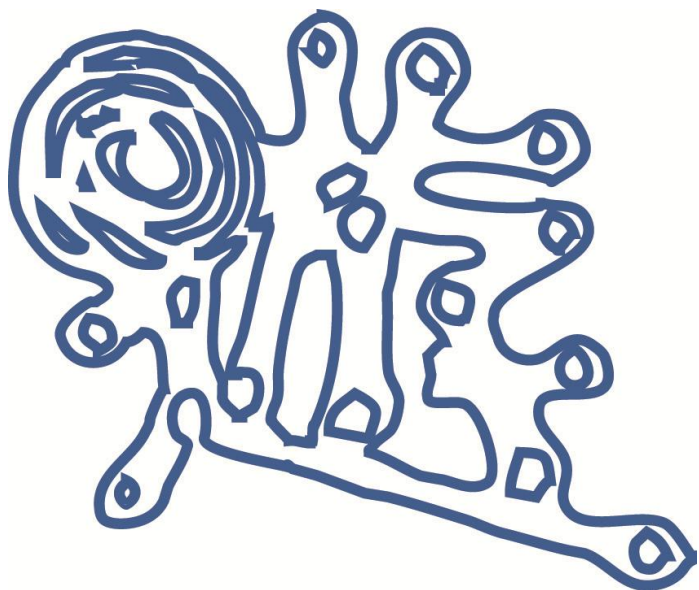




遊工房アートスペース



youkobo ART SPACE

年間報告 2012

遊工房アートスペースでのアーティスト・イン・レジデンス事業は

 平成 24 年度文化庁文化芸術の海外発信拠点形成事業として採用されました。

目次

	頁
はじめに - 新たなこれからの 10 年のはじまり	1
遊工房について - ヴィジョン・バリュー・ミッション	2
1. 活動概要	
1-1. AIRプログラム	4
1-2. ギャラリー・プログラム	8
1-3. スタジオ・プログラム	14
1-4. イベント(アーティスト・トーク、クリティーク・セッション、シンポジウムなど)	15
1-5 研修制度 GIP: Global Internship Program	18
2. ネットワークの展開	
2-1. 海外	19
UK(ポートランド)、シンガポール(INSTINC)、WEYA2012	
欧州文化首都(ポルトガル・ギマライェス)、台湾・花蓮ワークショップ 2011	
2-2. 国内	21
JENESYS Programme 東アジアクリエイター招へいプログラム・3 年目	
寄居	
横浜・ハンマーヘッド・スタジオ連携プログラム開始・2 年間	
GTS観光アートプロジェクト・3 年目	
2-3. 地域	23
「トロールの森」新たなスタートの新体制への支援、含む「春のトロール」展	
「アート・キッズ」子どもの為のワークショップ・8 年目	
3. 特別企画「MICRORESIDENCE!」	24
年間活動一覧	付表

はじめに

遊工房、これからの 10 年のはじまり

遊工房アトスペース 共同代表 村田達彦

2012 年は、震災後の復興 1 年目、私たちの AIR 活動の原点を振り返る年、展示活動の新たな取り組みなど、これから先の 10 年に向け良いスタートの年となった。レジデンスプログラムでは、3.11 の災害で急きょ帰国したアーティストや、滞在予定を見合わせていたアーティストの来日が続き、ギャラリーでは、個展のみでなく、アーティスト企画のプロジェクトやグループ展を含む意欲的な活動が目立った。

1. 国内外アーティストの交流機会の創出

活動事業の基本となる、レジデンス滞在の海外アーティストと、ギャラリー展示の国内アーティストとの接触を意図した仕組みとして、アーティスト・トーク、クリティーク・セッション、ワークショップ、交流会などの活動をより充実させ、2012 年は、滞在アーティスト 14 人、展示アーティスト 40 人という多くの来訪者に恵まれた実り多い 1 年となった。

2. 「グローバルにローカルに」を目的とする活動展開

若手アーティストの活動機会を広げ、促すために、これまでの活動を基にした繋がりのある、人と人を通して、グローバルにローカルに、を意識した活動を実践している。海外の繋がりの実例として、欧州文化首都からのアート関係者の来訪 5 組、日本の若手アーティストの海外派遣 4 件など、活動の場と機会が増加し、ローカルの視点では、国内 AIR との協働事業としての海外アーティスト受入れ、地域の都立公園で展開していた野外アート展「トロールの森」の地元若手グループへの引継ぎなどがあった。また、国内活動として、横浜市でのプロジェクトへの参加や、東京芸大によるアート活動への参加継続などを積極的に展開した。

3. AIR の顕在化

秋に、AIR の世界的ネットワーク機関 Res Artist の世界大会の東京開催に合わせ、アーティストが主導する AIR の運営者が集まる機会を設け、それぞれの活動の趣旨、内容などを可視化する特別イベント、「マイクロレジデンス！」を実施することが出来た。フェースツーフェースの議論の深まり、課題の共有化、今後の共同事業の模索など本格的な活動の始まりとなった。

4. 遊工房の活動を支える管理・運営面の前進

はじめに、遊工房 10 年誌の編集発行を挙げたい。2011 年度に迎えた 10 周年は、大震災の遭遇と重なり、10 年間の記録集の発行に予想以上の時間が費やされたが、スタッフ全員の協力体制により、2012 年夏に無事発行の運びとなった。次に、AIR 事業は、文化庁補助金による「芸術文化の海外発信形成事業」として採用され 2 年目を向かえ、アーティストとの協働活動に一層の改良を図っている。滞在制作を始めるに当たって、導入プログラムの定着化、国内外への広報の道具として有効な「活動カタログ」の発行のルーティン化などがある。AIR 利用者であるアーティストの生の声を運営者に伝える場の設定は、AIR 事業改善のフィードバックに役立っている。また、ギャラリー事業では、展示会期中の批評的な議論の場を、国内外のアーティスト同士の衝突現場を意図して作り上げている。また、アーティストが展示をする機会を持つことについて、改めて問い直す企画や展示を積極的にサポートした。

これらの活動は、いずれも人と人の繋がりが発端であり、対話を通した堅実な繋がりによって、双方の立場の理解がなされ、アートを通したこれらの活動の継続から、批判的な目が研ぎ澄まされ、寛容な精神が培われるなど多くの効果を生んでいる。また、次世代の力を信じ、共に次のステップへ踏み出した 2012 年であった。

遊工房について

アートは社会と一体の不可欠なものであり、人々の生活に潤いと気付きをもたらすものです。遊工房アートスペースは、独自のアート活動を通して、地域性と国際性、伝統文化と現代美術という一見異なる方向性を示す要素を繋ぎ、多様性が自然に受け入れられる場づくりや交流を実践しています。真摯に活動するアーティストの表現活動の支援と共に、地域社会の一員として、今後とも実践を通じたアート活動を継続していきます。

ヴィジョン

遊工房アートスペースは、多様な創作活動に応える実践の場となることでアーティストを支え、アートの社会的な役割とその重要性を提示することを目指しています。

バリュー（核となる価値観）

・開放性と交流：

アートは広く開かれるものであると同時に、異文化の人々のコミュニケーションと理解を育てるために必要なツールであると考えます。

・フレキシビリティ（柔軟性）：

アートとアーティスト活動の本質に対して、私たちの活動はフレキシブルな取り組み方が不可欠であると認識します。

・自律性：

コミュニティや他の組織と強固なネットワークを保つことを大切にしながら、アーティストと遊工房自身の個性と多様性を維持します。

ミッション

・真摯に活動が続けるアーティストの創作・発表の活動を支援します。（AIR プログラム、ギャラリー・プログラム）

・国内外のアーティストの交流、さらに地域社会の人々との対話を通じた相互理解の醸成を図り、多様性が受け入れ

られる社会の形成を目指します。（アート・イベント、トーク）

・他の AIR センターやアートスペースとのネットワークを築き、より多くの人々がアートを楽しめる環境づくりに努めます。
（Res Artis 、J-AIR Network、AIR-J など）

・人々がアートに接する様々な機会を生み出し、アートが社会にとって不可欠であるという認識を広まるよう努めます。

遊工房アートスペースは以下のメンバーで運営されている任意団体です。

代表： 村田弘子、村田達彦

スタッフ： 針谷美香、柊田有理、ジェイミ・ハンフリーズ、鈴木慶子、進藤詩子、佐々木祥江、太田エマほか

1. 活動概要

1-1. AIR プログラム

ニール・マローン (オーストラリア)

2012.1.3 - 3.31 レジデンス 2 + スタジオ 2

絵画と版画を中心に 70 年代より活躍、メルボルン大学ヴィクトリアンカレッジオブジァーツ学部版画学科長など歴任。今回は、遊工房10周年を記念した二度目の滞在制作となった。成果展の作品は「沈思と瞑想は、現実と自己の存在を具体化する 為に必要不可欠である」という考察を表した。



アマンダ・リッフォ (フランス)

2012.2.1 - 3.31 レジデンス 1+スタジオ 1

アマンダ・リッフォは、アイスランドの首都レイキャビックを拠点に活躍するフランス人アーティスト。滞在中には積極的なリサーチを展開し、成果展では、スペースシップのような空間を構築、ドローイング、オブジェ、アート・ブック、映像も併せて展示した。リサーチの好展開を受けて、2013 年に継続する予定である。



サラン・ユコンディ (タイ)

2012.04.02-05.30 レジデンス 2 + スタジオ 2

インテリアデザイナー/アーティストのサラン・ユコンディは、国際交流基金・JENESYS プログラム「東アジアクリエイター招へいプログラム」により招聘された。スタジオ制作では、タイと日本の文化の接点を探りながら、自らがデザイン、用意した紙と留め具を使い、来訪者の皆様が願いを書き吊るしていくことで、作品を完成した。並行して、近隣の小学校で特別授業を行い善福寺公園で「トロールの森: 春の子供展」に参加した。



バート・ベンショップ&レオンティン・リーフェリング(オランダ)

2012.04.04 - 2012.06.29 レジデンス 1+スタジオ 1

バートは、彼が知覚した東京の大都会と郊外の視覚化を試みた。郊外の風景から都会の端まで、そして街を縦横に跨ぐ高速に広がり、何度 もフィルムを巻き直し幾層にもイメージを重ねた。

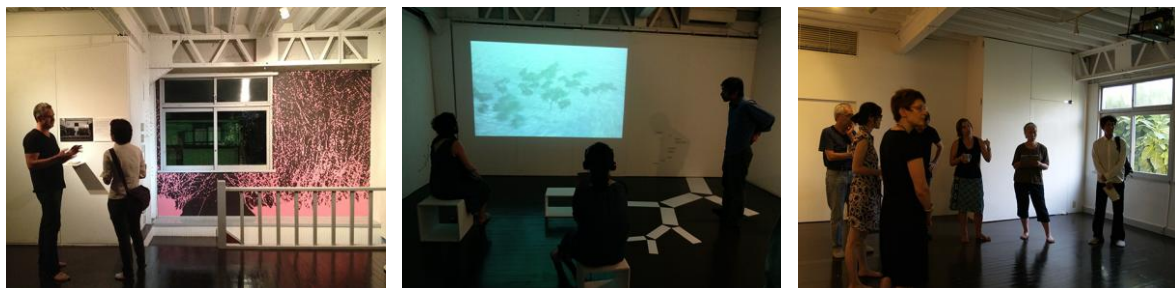
レオンティンは建物が構築、改築、解体など様々な段階にある現場を写真で撮りメモやドローイングに残した。これらの‘持続する動き’を持つ現場での彼女の体験を固定し、通常なら見落としがちな側面を露にする目的で、不断の変化の中に埋もれがちな些細な要素に意味を与えるようとした。



アルムート・リンク&クリストフ・シュレーゲル(オーストリア/ドイツ)

2012.6.18 - 7.31 レジデンス 2 + スタジオ 2

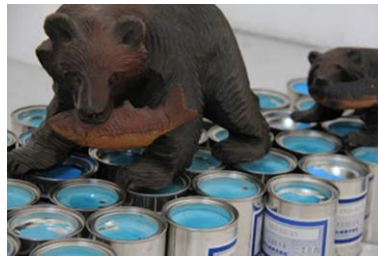
10周年を記念した再招聘作家、アルムート・リンクとクリストフ・シュレーゲルは、作家としての大きな飛躍のきっかけとなった前回の遊工房レジデンスを振り返りながら、素晴らしいコラボレーション展示「SolidGrowth」を開催した。アルムートは「SolidGrowth - A Scene with 2+1 Species」で、レンダリング用ソフトウェアを使って植物の要素から風景を構築、チュートリアル形式で進行する画像とナレーションの音が、自然を構築する旅へと見る者を誘った。クリストフは「ヒートアイランドの青写真」で、遊工房外壁に残る鳶の痕跡を模した壁紙を制作、痕跡を遺伝子コードに見立て、過度に物事が密集する大都市の中に潜む緑の遺伝子コードが、縦方向に伸びることを強制されているという青写真として、都市生活者である観客に責任を問いかけた。



カタリナ・テュカ (アルゼンチン)

2012.7.3 - 9.30 レジデンス 1+スタジオ 1

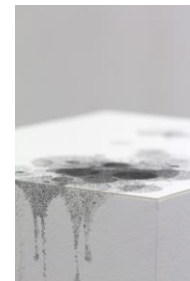
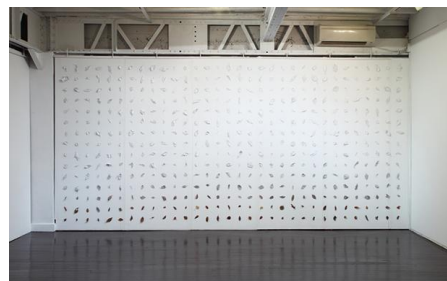
遊工房で初めての南米アーティスト受け入れとなったテュカは、現代美術の目覚ましい成長を遂げるサンチアゴで活躍する若手で、絵画の制限性とオブジェとしての支持体の関わりを探究している。「スギナミスカイ」は、日常的なオブジェを対象に日本的なアイデンティティーを視覚的に探究した。ゴミ捨て場から集められたオブジェは、近隣の経済・社会・文化的な現実を反映しながら、素材感や意味合いを通じて相互に対話を生んだ。



ジェレミー・バッカー(オーストラリア)

2012.08.01 - 09.30 2012.10. 1 - 11. 2 レジデンス 2 + スタジオ 2

バッカーは、インスタレーション、ドローイング、彫刻、写真と幅広いメディアを用いて、不在／存在、広大／微細、特定／普遍 といった対極なモノに間にある動きを伝えることを目指している。遊工房での滞在制作は自然界で人間が経験する共通のディテールに備わる神聖で崇高な何かを呼び起こす作品に対する、バッカーの途絶えることのない興味の上に位置し、複合的なオブジェやによるインスタレーションを展開した。



フランシスコ・ゲバラ(メキシコ)

2012.10. 1 - 11. 2 レジデンス 2 + スタジオ 2

ゲバラの作品やプロジェクトは、経済発展における役割と、社会変革のツールとしての現代美術を強調する。作家として、食物、飲食の儀式性、集団のアイデンティティを探究する彼は、インディペンデント・アート&レジデンススペースの Arquetopia のディレクターも務める。本滞在では、生存に必須なものでありながら社会状況を明確に映し出す食物という素材を介して日本とメキシコの繋がりを探究した。



ジュリー・アップメイヤー(アメリカ/トルコ)

2012.10.2 - 11.30 レジデンス 1+スタジオ 1

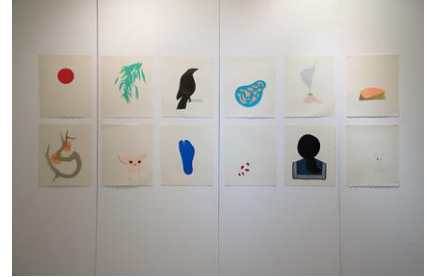
アップメイヤーの作品は、インタラクションを基礎に想像されるサイトスペシフィックな経験そのものである。地域を超えたインタラクティブな料理体験をする「ヴァーチャル・シェフ」等のプロジェクトをトルコで開始。同年、イスタンブールに制作と住居の為のスペース Caravansarai を共同創設。本滞在では、親戚と日本との過去の関係を追いながら、コミュニケーションの場作りとして、彼女の家に代々伝わるレシピをベースにインスタレーション作品を制作した。



アナト・リトウィン（イスラエル）

2012.11.3 日 - 11.27 レジデンス 2 + スタジオ 2

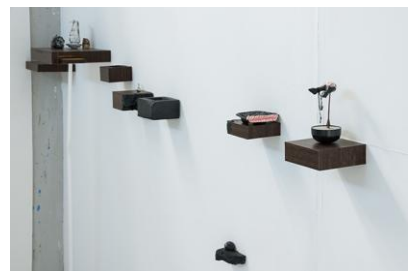
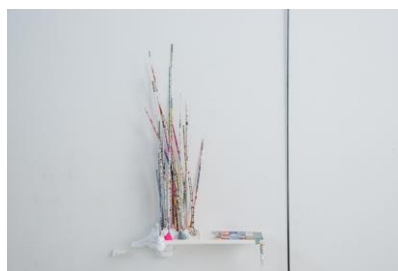
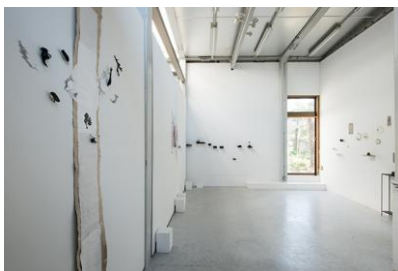
国際的に活躍するイスラエル系アメリカ人のアーティストキュレーター。Home の意義を探究する流浪的且つサイトスペシフィックなパブリック・アート・プロジェクト HomeBase Project の創設者兼アーティスティックディレクター。今回イスラエル大使館のサポートによって MICRORESIDENCE! 企画に参加し、作品の中で創作、集会、共同作業、文化と労働の意味について沈思の為に用いられ、そして文化と労働が結ばれ織り合うことを強調した。



ニコラス・バスティン（オーストラリア）

2012.12.3 - 2.23

ジュエリー作家として 90 年代よりオーストラリア国内外で活動続けるバスティンは、近年、現代美術の世界でも活発に活動を展開。今回のレジデンスでは新作オブジェ作品を制作するにあたり、バスティンは個人的なミニチュア・コレクションの空間の可能性を探求した。大量生産された物語性を持つオブジェを、個人がどのようにセレクトし、またディスプレイするかをリサーチし、自分の日本での経験を混合させたミニチュアの世界を構築した。

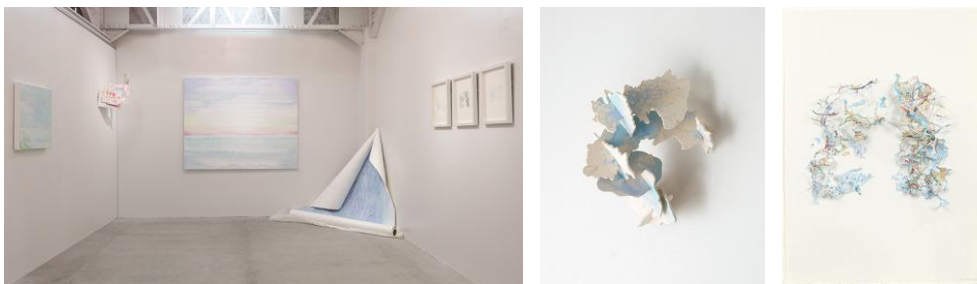


1-2. ギャラリープログラム

村上綾 「folded landscape」

2012 年 02 月 02 日(木) - 2012 年 02 月 19 日(日)

絵画を主軸としながら、コラージュ・写真・立体といったいくつかの媒体を横断的に用いる村上綾。それらの作品は入れ子のように相互に反映され、空間へ配される。今回の展覧会では、Folded landscape と題し、風景のひだ・身体風景・記憶の居場所といった言葉をもとに制作された作品を発表した。



村上郁 「かんたん旅」

2012 年 02 月 02 日(木) - 2012 年 02 月 19 日(日)

遊工房で初の展示となった村上郁。彼女は作品に用いるマテリアルを実際に自らが行動して手に入れる。それ自体が持っている文化的・歴史的背景を探る行動に理論的・詩的な解釈を加えて再構成することで、ものの自体と彼女自身の帰属意識の考察を深めている。



シャーリー・チョー [オーストラリア] 「Grandmother's Flower Garden」

2012 年 02 月 29 日(水) - 2012 年 03 月 04 日(日)

日本の美大に属しリサーチを展開した 2 年間の最後を飾った本展で、シャーリー・チョーは、インスタレーション作品を制作。、自身が子供時代に家族や友人から布を集めて作った、キルトのパッチワークの記憶を辿った。その親密な思い出は、現在の彼女の人間関係 や美術作品を制作する過程において大切な役割を担っている。



守章「終日二十三区」

2012 年 03 月 11 日(日) - 2012 年 03 月 18 日(日)

コンセプチュアルなプロジェクトや作品で知らせる守章が、遊工房のロケーションからインスピレーションを受けて展開させたプロジェクト。都市のインフラへの信頼と 3.11 によってその信頼の崩壊、明らかな脆弱性に焦点を当てる試みとして 2012 年 3 月 11 日に東京の 23 区を通る特別なバスツアーを開催し、遊工房へのルートの途中で参加者を乗せた。乗客がバスに乗り込む度に、非常事態を想定するテストとして毎夕流れる防災無線の音楽が車内に鳴る。その音は、日常が確かに毎日更新されていることの証でもある。バスの運行状況が音声によってギャラリー内に中継され、展示期間中も再生された。

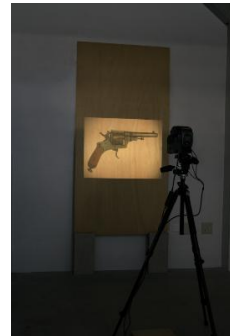


グループ展「T/here」

洗川寿華、マイク・チャン、クサナ・クドリャツェフ・ディミルナー、イバン・マリティネズ & ジョシュア・トゥリーズ、クリスター・オルソン [多国籍]

2012 年 04 月 05 日(木) - 2012 年 04 月 29 日(日)

洗川寿華、クリスター・オルソンが中心となって企画したグループ展で、マイク・チャン、クサナ・クドリャツェフ・ディミルナー、イバン・マリティネズ & ジョシュア・トゥリーズ、の4名1組、計5名の多国籍なアーティストによる展示となった。「日常と異常が交わるあいまいな領域において、時間は独特なものとなってゆく。それは新しいイメージを投影し、自己に言及したシミュレーションを重ねながら、時間は遅くなり具現化し、そして唯一のはずの真実を多義的にする。まるで「鏡の国のアリス」のように、時間や空間は反転する。この結末は予測などできない。しかし流動性と不変性の境のあいまいさから生じるフラストレーションによって、私たちは新しい形式とアイディアに出会うこととなる。」



わたなべ 詩子「1944 年と 2012 年」

2012 年 05 月 03 日(木) - 2012 年 05 月 13 日(日)

本展で発表されたわたなべ詩子の映像作品は、20代～30代の若者たちが86歳のおばあさんから聞いた物語をあたたかも自らの出来事のように話すというもので、展示ではテキストやドローイングといった媒体も用いられた。見る者は、

一本の線のように捉えていた個人的な記憶が解れバラバラになり、時間や記憶の形がなくなり、過去も未来も入りまじりプールたまったような感覚を引き起こされた。



Unknown シリーズ 号外「Unknown Voice」

白井美穂 / 松本春崇 / 森本太郎 / 高田安規子・政子 / 村田峰紀 / 原游 / 村上綾 / 西原尚 他 [日本]

2012 年 05 月 16 日(水) - 2012 年 05 月 27 日(日)

カトウチカが 2011 年夏より企画／キュレーションを行っている「Unknown シリーズ」では「3.11 以降、アーティストは何を受け止め制作したのでしょうか」、アーティストの表現がどのように震災に影響を受けたかという問いを投げかけた。この展示では深く繊細に状況を映した作家達の「Voice」を各々が発表する場所を作った。多数の来訪者が訪れ、テーマや作家の企画への関心の高さが伺えた。



宮坂直樹 「空間越え」

2012 年 06 月 02 日(土) - 2012 年 06 月 10 日(日)

「表現者としてではなく、造形構成の研究者として活動している」宮坂直樹は、空間とは、主体が知覚し、作用する外部環境ととらえ、空間越えを主題に展覧会を多数開催してる。

美大の博士課程に在籍する宮坂らしい展開で、今回の碑のような作品を通してその空間と造形に関する研究内容を発表する為の場として構成した。

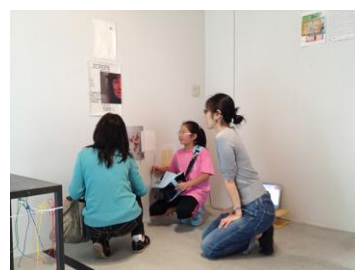
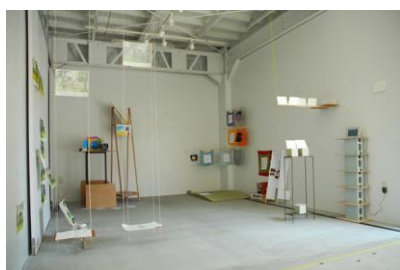
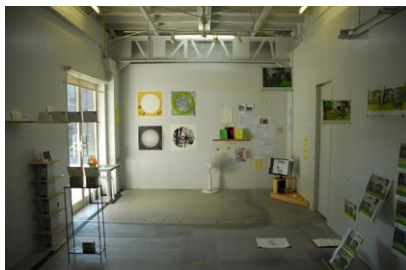


プロジェクト「まいにち美術でいきている」

エリザベス・プレサ、ティア・レヒナー、蔦谷楽、進藤詩子 [多国籍]

2012 年 07 月 18 日(水) - 2012 年 07 月 29 日(日)

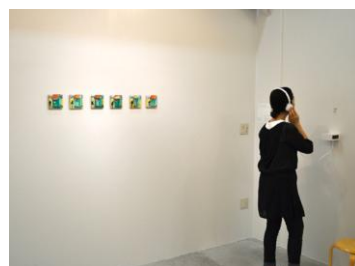
遊工房のスタッフであるアーティストの進藤詩子が企画したプロジェクトでベルリン、メルボルン、NY、東京在住の 4 人のアーティストの日常生活から生まれた表現を、期間中累積するスタイルで展開された。複数のコミュニティーや国に属して活動続けるアーティストが、場所に拘束されない立場や活動の継続の可能性を探りながら、日々の営みをアートという言葉にトランスレートした。



坂本夏海 「unforgettable landscapes#1(pigeon loft)」

2012 年 08 月 29 日(水) - 2012 年 09 月 02 日(日)

近年インスタレーション作品を展開していた坂本が、久々に絵画作品を取り入れてスタートした新シリーズ「unforgettable landscapes」は、他者との会話から切りとられた言葉をもとにした記憶の風景である。この展覧会ではいま目の前にひろがる景色が一瞬のうちに過去の景色となり、それらはやがて記憶となり、断片的な風景を集め、私たちが今日からも移動できるような状態をにした。



佐藤譲二 「佐藤譲二個展」

2012 年 09 月 05 日(水) - 2012 年 09 月 23 日(日)

佐藤の作品は「映像イメージを絵画イメージに置換する」作業から生まれる。佐藤は、メディアに流布するイメージを映画的なオーバーラップの手法で何層も重ねることで、絵画への運動イメージの導入を試みている。そこでは輪郭や面から具象性が奪われ、抽象、そしてカオスのイメージ、或はノイズイメージの世界 が展開される。今回の展覧会では「感覚器官のひとつが欠落したまま、世界を知覚する」作家の身体的条件を象徴するかのように、佐藤の作品は一環してモノクロの画面であり、それはサイレント映画の表層のイメージの表現を発表したものである。



特別企画展「世界のマイクロレジデンス体験」

第一弾 2012 年 10 月 4 日～10 月 14 日 丸山芳子、松本恭吾、サラン・ユコンディー

第二弾 2012 年 11 月 10 日～11 月 23 日 相原正美、石井隆浩

MICRORESIDENCE!の特別企画において遊工房のネットワークを通して世界中マイクロレジデンスに滞在した作家がその体験から得たアイデアを展開した作品を発表した。フィンランド、イギリス、または日本国内での AIR に参加した 5 人のアーティストが二回に分かれた展覧会で、その体験を振り返り、その成果を共有した。



特別企画展「マイクロイントロ展＋アーカイブ・ライブラリー」

2012 年 10 月 20 日(土) - 2012 年 11 月 04 日(日)

特別企画の一環として行われる本展は、マイクロレジデンスネットワークの可能性を積極的に求める国内外のレジデンス(14 軒)の「ジオラマ」を紹介した。10～11 月遊工房レジデンスアーティストのジュリー・アップメイヤーの制作によるジオラマをはじめ、写真、映像、文章によってそれぞれのレジデンスの 特徴や魅力を伝えた。当スペース(遊工房)ディレクターへのインタビュー映像の設置は、来訪者に対して、マイクロレジデンスの基本精神を伝えるものとなった。

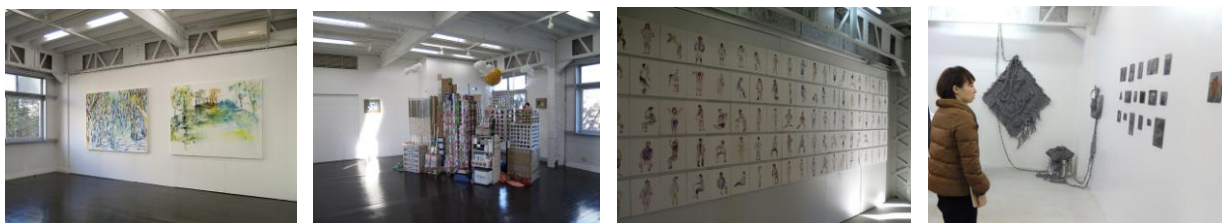


グループ展「それぞれの 30/own thirty」

井澤由花子、新藤杏子、長坂絵夢、吉川菜津乃 [日本]

2012 年 11 月 30 日(金) - 2012 年 12 月 09 日(日)

友人を介して出会った、1982-1984年東京に生まれた新進若手作家 4 名からなるグループが、企画展示した。9・11、リーマンショック、さらには2011年3・11、東北地方の巨大地震を目の当たりにし、隣国との関係も不穏な現在に至る社会背景の同時代を生きた 4 人は、初めてグループ展を企画・開催する過程で、共有してきたこの30年の時代の風景を、個人的に積み重ねてきた世界観から考え、それが作品へと反映された。

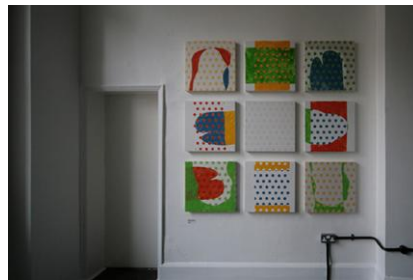
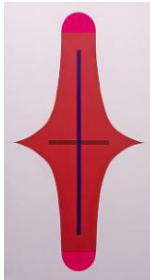


海外活動報告展 「3 Japanese Artists in WEYA2012」

加藤巧、金井学、宮坂直樹 [日本]

2012 年 12 月 12 日(水) – 2012 年 12 月 16 日(日)

2012 年9月、世界各国から若手アーティスト 1000 人が参加し、英国ノッティンガムで開催された大規模アートイベント World Event Young Artists 2012 (WEYA)。遊工房アートスペースのサポートで、日本から WEYA に参加した、加藤巧、金井学、宮坂直樹の 3 名による報告会と展覧会を開催、2 週間の間に繰り広げられたイベントの熱気が伝わるものとなった。



1-3.スタジオプログラム

松本恭吾

2011. 12.23-2011.1.13 (展示 2012.1-14-1.29)

郊外を含む都市空間を作品の対象として制作する松本は、2011 年から定期的に西荻窪という都市空間をフィールドリサーチ。12 月後半より、遊工房のギャラリースペースをベースキャンプとし、リサーチをまとめ、作品へと昇華、制作し、2012 年 1 月から展示を行ない、2010 年の他の都市(フィンランドやつくば市)のリサーチも並行して行い、トークイベントを開催した。



1-4. イベント(アーティストトーク、クリティーク・セッション、シンポジウムなど)

遊工房では、国内外のアーティストと、より広いコミュニティとの交流を促すことを目的として、年間を通じてアーティスト・トーク、対談、クリティーク・セッション、さらにシンポジウムやワークショップなどのイベントを開催しています。また、活動に関連する講演も積極的に行っています。「クリティーク・セッション」とは、遊工房でスタジオ制作、ギャラリー展示を行なった作家が、より一歩踏み込んだフィードバックを得られる場として、遊工房スタッフ、遊工房に縁のある作家、美術関係者を集めて、率直な意見を交わす非公式のセッションで、2011 年より始めています。

<アーティスト・トーク>

2012.1.14	松本恭吾(ゲスト: 那須孝幸、北九州美術館 学芸員)
2012.5.6	わたなべ詩子
2012.7.27	アルムート・リンク、進藤詩子、その他
2012.7.28	エリザベス・プレサ、ティア・レヒナー、蔦谷楽、進藤詩子
2012.9.8	佐藤譲二(ゲスト: 写真家・斎藤陽道)
2012.10.4	丸山芳子、松本恭吾
2012.10.20	フランシスコ・グェヴァラ
2012.11.10	相原正美、石井隆浩、ジュウリー・アップメヤー、他
2012.11.23	アナット・リトウィン
2012.12.2	長坂絵夢・井澤由花子・新藤杏子・吉川奈津乃



<クリティーク・セッション>

2012.2.12	ギャラリー展示	村上綾・村上郁
2012.3.4	ギャラリー展示	シャーリー・チョウ
2012.3.18	ギャラリー展示	守章
2012.4.21	ギャラリー展示	T/here
		洗川寿華 & クリスター・オルソン(企画・展示者)、バート・ベンショップ & レオンティン・リファリング(レジデンス1)、サラ・ユコンディ(AIR2)、堀江映予 & 武田友理(交流基金)、村田達彦、村田弘子、柊田有理、進藤詩子(スタッフ)、進藤雅子(一般)
2012.5.12	ギャラリー展示	わたなべ詩子
		村田弘子、レオンティン・リーフェリング & バート・ベンショップ(AIR1)、サム・ストカー(作家)、本間哲郎(先端卒生)、村上郁(作家)
2012.6.9	ギャラリー展示	宮坂直樹

- 2012.7.26 ギャラリー展示 バート・ベンショップ&レオンティン・リーフェリング(AIR1)、村田弘子、村田達彦
まいにち美術で生きている
クリストフ・シュレーゲル&アルムート・リンク(AIR 2)、カタリナ・テュカ(エア1)、ザラ・スタンホープ(インディペンデント・キュレーター、メルボルン)、村田達彦
- 2012.8.26 ギャラリー展示 坂本夏海
村田弘子、池田哲、カタリナ・テュカ、ジェレミー・ベーカー、サム・ストッカー、他作家友人多数(のべ 20 名ほど)
- 2012.9.21 レジデンス展 ジェレミー・バッカー
村田弘子、池田哲、カタリナ・テュカ、ジェレミー・ベーカー、サム・ストッカー、他作家友人多数(のべ 20 名ほど)
- 2012.9.21 ギャラリー展示 佐藤譲二
村田弘子、池田哲、カタリナ・テュカ、ジェレミー・ベーカー、サム・ストッカー、他作家友人多数(のべ 20 名ほど)
- 2012.9.21 レジデンス展 カタリナ・テュカ
村田弘子、池田哲、カタリナ・テュカ、ジェレミー・ベーカー(AIR2)、サム・ストッカー、他作家友人多数(のべ 20 名ほど)
- 2012.12.5 ギャラリー展示 それぞれの30
長坂絵夢、吉川菜津乃、井澤由花子、新藤杏子、ニコラス・バスティン、ジェイミ・ハンフリーズ



<パフォーマンス・その他>

- 2012.5.16 パフォーマンス 松本春崇
- 2012.6.20 即興演奏 マルコスフェルナンデス
- 2012.6.22 - 6.23 読書夜会 エリザベス・プレサ、進藤詩子他



<シンポジウム>

<シンポジウム>

- ・2012. 「AIRs vol.2・アーティスト・イン・レジデンスほんとうのはなし」マイクロレジデンス編
 - 1 4/15、フィンランド・ArtBreak&KK
 - 2 5/20、UK ポートランド
 - 3 6/3、遊工房アートスペース
 - 4 6/24、福岡・Kura
- ・2012.10.30 「マイクロレジデンス！」



<講演>

- ・2012.1.21 ResArtisStrategic Meeting、村田達彦 Microresidence の調査研究中間報告
- ・2012.3.10 トーキョワンダーサイト・フォーラム、村田達彦 遊工房アートスペース活動報告
- ・2012.10.03 東京・新宿 東洋美術学校 村田達彦 「アーティスト・イン・レジデンスとは」
- ・2012. 東京・杉並 女子美術大学アートデザイン表現学科 特別公開講座 国際交流文化概論 B
 - 11.2 Julie Upmeyer 「Art Initiator」
 - 11.9 進藤詩子 「Practicing Art」
 - 11.16 村田達彦、弘子

<インタビュー>

- 2012.8.22 進藤詩子 桃井第四小学校 キャリア教育(6年)「身近なプロフェッショナル」

<投稿記事>

- ・ARDA ニュースレター第6号(2012.9.1)
文化芸術の海外発信拠点としてのアーティスト・イン・レジデンス、そして、マイクロレジデンスのこと 村田達彦
- ・玉大キュレーターズ会報「たまゆに」No.41(2013.2.10)
イスタンブールの銀座通り、イスティックらる通りの散策 村田達彦
- ・

1-5. 研修制度 GIP:Global Internship Program

遊工房のレジデンス・プログラムと展示・スタジオ・プログラムさらに関連するネットワーク活動を実践を通して体験するインターン制度です。半年から1年間の実習で、2007年より始めています。これまでに、オランダ、英国、スペイン、オーストラリアからの帰国子女、英国からの研究生の合計5人の受け入れました。本人の将来の活動への礎となると共に、遊工房の活動にも新鮮な息吹を与えています。2012年は、募集を中断していました。

- ・Yuko Kotera 帰国後アムステルダムに本部を構える TransArtists スタッフとして従事した。
- ・Jaimey Humphries スタッフを経てアートキッズ主宰ほか、アーティストとしての活動も開始し活躍中。
- ・Marta Grasia 帰国後、スペインの AIR ネットワーク活動に従事。遊工房でのレジデンスアーティストと結婚。
- ・進藤詩子 2011 月～3 月(3 ケ月)スタッフを経てアーティスト活動にシフト。
- ・太田エマ 2011 年 6 月～12 月(7 ケ月)スタッフを経て翻訳、アートを通じた地域活動や WS などに活動。

2.ネットワークの展開

2-1. 海外

Res Artis アーティスト・イン・レジデンスの世界ネットワーク

遊工房アートスペースが加盟している、アーティスト・イン・レジデンスの世界ネットワーク「Res Artis」の2年に1回の世界総会が10月東京で開催された。代表、マリオ・カロほかカロール、イカ、村田の他、会期中の役員選挙で、フランシスコ・ゲバラほか4名の新たな役員が選出された。遊工房アートスペースは、これまでの研究調査を踏まえ「マイクロレジデンス」のセッション開催などに貢献、引き続き世界のAIRネットワークの充実にむけ活動展開をしていく。



英国・ポートランドへ

遊工房で過去2回レジデンスを行った UK アーティスト、マーク・ダンヒルとタミコ・オブライエンの縁で、アーティストのハナとポールが運営するレジデンス Portland Sculpture and Quarry Trust にて、2名の日本人アーティストが45に渡りレジデンスと展示を行った。北海道を拠点に活動する彫刻家の相原正美は、ポートランド石で有名なこの島で、原石の自然のままの表面のテクスチャーを生かし、注意深く先史に水が通っていた痕跡を彫り残す作品にまとめた。近年海外での活動も展開する石井隆浩は、イングランドと日本の、主に庭での石の使い方の違いに着目してリサーチを展開、展示では日本庭園の持つバリエーションをインスタレーションで紹介した。「AIR 本当の話」と「マイクロレジデンス 特別企画」内の展覧会で、PSQT の情報や、現地での2人の作家が展開した活動が紹介された。

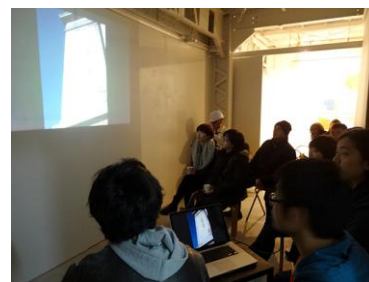


6581PJ

シンガポールの AIR-INSTINC との交換プログラムとして、日本から4名のアーティスト(村上綾・郁姉妹、栴田ちひろ・有理姉妹)が INSTINC で、シンガポールから3名 (Shih Yun Yeo, Justin Lee, Ade Putra Safer) のアーティストが遊工房で滞在制作と発表と交流を行うことで進んでいたが、INSTINC のディレクターの事情により、1年延期となり次年度へ計画変更となる。

WEYA (World Event Young Artists2012)

9月に英国ノッティンガムで開催されたWEYAは、オリンピック年を記念してUK Young Artist が主催した「創造性」をテーマとしたフェスティバル。世界各国にパートナー機関を集め500人以上の若手クリエイターが集った。遊工房は、過去にBJEM(地中海青年ビエンナーレ)ResArtis アワード受賞作家をレジデンスに受け入れた縁で、日本のパートナー機関となり、遊工房ギャラリーで展示経験や国外での活動経験もある若手作家3名(加藤巧、金井学、宮坂直樹)のWEYA参加を支援。ノッティンガムの街全体が会場となった2週間のフェスティバルで、3作家は作品の展示や、各種イベントへの参加を通して、新しい出会いと発想を獲得して帰国。年末に報告展覧会とプレゼンテーションを開催。訪れた同世代の若手作家や滞在中のアーティストらと、フェスティバルの熱気を共有した。



欧州文化首都、ギマライエス 2012 と、コシチェ 2013

兼ねてより期待のあった、欧州文化首都とのアーティスト交流プログラムの第一段となった。EU ジャパンフェスト委員会の紹介を受けて、両地から担当が遊工房を訪問、作家選定し、日本側からは、ギマランエスへ門田光雅(2012年10月)、コシチェへは、洗川寿華が(2013年3月-5月)参加、コシチェから Erik Sille が遊工房 AIR に(2013年1月-3月)参加。

花蓮ワークショップ

台湾花蓮の美術大学の小雪教授の企画で行われているワークショップに遊工房から坂本夏海が参加。



<遊工房ネットワークのアーティスト、スタッフによるネットワーク>

滞在後のアーティストからのその後の活動情報のほか、遊工房に関わる仲間かからの生きた情報、face to face のつながりが広がっている。

2-2. 国内

JENESYS Programme 東アジアアーティスト招へいプログラム・3年目

Saran Youkongdee(タイ)は、遊工房に、4/2～5/30 滞在し、近隣の公園での野外展、「トロールの森・春展」のために杉並区立桃井第四小学校での特別授業と、成果発表としての展覧会「SPIRIT」を行った。また、埼玉県小川町和紙紙すき工房で体験教室へ参加ほか、遊工房と繋がりのある Studio Kura(福岡県)でレジデンスも行い、その体験報告会も開催した。

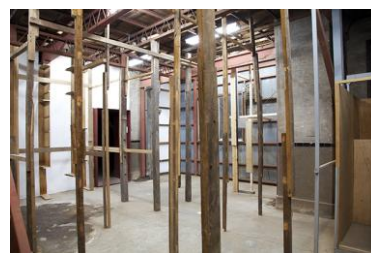


GTS 観光アートプロジェクト・3年目 (Geidai Taito Sumida Sightseeing Art Project)

GTS の行われた 3 年間、海外からのレジデンスアーティストを毎年一人推薦し、活動サポートをした。アーティストは、大学や地域を通じた公的なプロジェクトを経験し、活動の幅を広げると同時に、芸術の国際コミュニケーションとしての観点から大学や地域への貢献も図った。2012 年は、サム・ストッカー(英国・グラスゴー)が参加、まちなかでの新しい提案「シタマチ Base」を東武線高架下倉庫で 10/11～11/11 まで開催した。

* GTS プロジェクト

GTS は、Geidai、Taitou、Sumida の頭文字からきている、東京都内東部において開催されたアートプロジェクトで、正式には「GTS観光アートプロジェクト」と称する。「隅田川界隈にアート環境の創造」を目的に、2010 から 2012 までの 3 年間のプロジェクトとして、東京藝術大学・台東区・墨田区の共催で実施された。

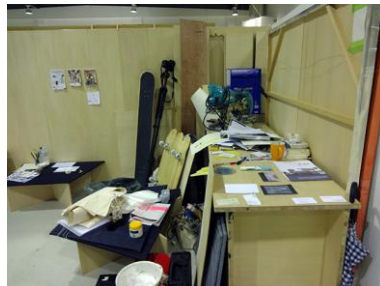


横浜・ハンマーヘッド・スタジオ連携プログラム開始・2年間

遊工房アートスペース (<http://www.youkobo.co.jp>) と、studio Jean の協働で、主に横浜をベースに置くアーティスト(洗川寿華、Krister Olsson 他)や、国内外のアーティストとのコラボレーションを図り、活動を広げる目的で開始した。

メインコンセプトを「リンク」とし、日常的な活動、オープンスタジオ、ワークショップ、イベントを取り組み、人と人、人と美術、クリエイターと観客、「新・港区」と人を繋げるという意味を込めた。

構成メンバー: 松本恭吾(代表)、那須孝幸(スーパーバイザー)、木村宗平、日出谷浩伸、森下勇樹、木村亮佑、藤井利貴、遊工房アートスペース。



寄居

寄居町「絵本と童話の森公園」構想に基づく、「農産物加工施設」外壁面へのフレスコ画(テーマ白雪姫)を制作設置。市民が親しむ、寄居の風景や農産物を加えた壁画をドイツ人アーティスト(Marte Kiessling マルテ・キースリング(ドイツ・ベルリン)と Viviane Gernaert ヴィヴィアン・ゲルナート(同・ハンブルグ)が制作し、遊工房が中心となりその支援を推進した。

* 関係機関: 寄居町／UG 都市設計／契約施工業者(未定)／ボッシュほか



2-3. 地域活動

野外アート展「トロールの森」10周年を終え、新たな始まり

野外アート展「トロールの森」は、遊工房の地域に向けた中心的な活動で、国内外のアーティストの他、地元の市民団体や、パフォーマー、桃四小の児童が参加するアートイベントである。善福寺地域に新たなエネルギーを与える仕組み作りを目指してきた。2011年で10周年を無事終了、多くの地域の方々が参加する地域に密着した催しとなり、2012年から、その運営を地元の若手に引継ぎ、新たな取り組みの始まりとすることができた。

「春のトロール」展は、近隣のコミュニティスクール、桃井第四小学校の4年生とアーティストが春の特定の期間に一緒に制作した作品を善福寺公園に展示するプロジェクトで、毎年開催されている。8年目となった今年は、遊工房に滞在制作をしていた、タイからのアーティスト、サラン・ユーコンディが担当、「私の中の木」と題した等身大のカラフルな木の彫刻を園内の「もしの森」に展示した。

秋の国際展は、11回目を迎え都立善福寺公園で、海外2名1組と国内11名の総勢13名1組のアーティストによるアート作品やワークショップと6組1名によるパフォーマーのパフォーマンスが行われ、地域の人々が身近にアートを楽しむイベントとなった。



「アートキッズ」子どもの為のアートワークショップ

「アートキッズ」とは、遊工房アートスペースの隣にある桃四小で月一回行われるアートワークショップ、12年目を迎え、これまで多数のアーティストたちの指導により展開してきたこの活動は、参加した児童が創造的な可能性をより広げる機会を与えている。ワークショップのテーマは年を重ねるごとに多様化し、音楽や手芸、そして近年からビデオ・テクノロジーなどの幅広いメディアを活用して行なってきた。2012年は、英国出身のアーティスト、ジェイミ・ハンフリーズが、3年目の継続担当として活躍、実験的なドローイングと立体を中心にしたワークショップシリーズを展開した。今年のプログラムの中では、見回りの環境を異なった観点から観察することに焦点を当てながら、空間と多様な材料を探索する様々なテーマの展開を参加者に提供した。遊工房の滞在アーティスト、レオンティン・リーフェリングもゲストとして指導し、参加児童が持参した使わなくなったおもちゃや梱包を「アップサイクルする」(いらなくなった物に新たな価値を与えるという意味)ワークショップを行った。その他、「ディスロケート」という、アートとテクノロジーを通して様々な地場において個人的・集団的な表現を探索する長期間のプロジェクトが、その一環としてワークショッププログラムを展開した。このワークショップ・プログラムの結果は、「トロールの森」展にも発表された。



3. 特別企画「マイクロレジデンス！」

「マイクロレジデンス！—アーティスト・イン・レジデンス、マイクロレジデンスからの視点」

アーティスト・イン・レジデンス(AIR)は、アーティストが滞在制作を通して、創作活動や異文化交流などを行う事業で、国内外に広く存在し、長期滞在型 からイベント的なプログラムまで、活動形態や規模も様々です。その中で、小規模(施設・予算)アーティスト・ランで、インディペンデントに草の根的な活動 を行う AIR が「マイクロレジデンス」です。アーティストへのサポートに重点を置き、柔軟な対応と人間関係を大切にするのが特徴である。今日、芸術・文化的な交流を促進しながら成長を続けるこのような小規模レジデンスは、AIR 事業に対して新しい方向性を示していると言えるだろうか。AIR をどのように定義 すれば良いのか？どのような機能を持ち、また、利点があるのか？これらの問いへの答えは単純ではなく、各 AIR の環境、社会的な背景の差異を理解することが重要だろう。本企画は、AIR の可能性や重要な役割を改めて問いながら、「マイクロレジデンス」を多角的に検証したものだ。この企画では 3 人のアーティスト/マイクロレジデンスディレクターの滞在制作プログラムを開き、遊工房のネットワークを通してマイクロレジデンスに滞在したアーティストの展覧会も開催し、国内外の31軒のマイクロレジデンスの資料もアーカイブとして提供した。一つのハイライトとしては「マイクロレジデンス・ディレクターズ・トーク」というイベントで世界中のレジデンスディレクターやアーティストなどが集まり、マイクロレジデンスの根本的な活動について様々な意見交換ができたことである。詳細な報告を「マイクロレジデンス！2012」と題してカタログにまとめ、今後の新しい繋がりやコラボレーションに役立てられることが期待される。



2012 Overview

		AIR・Studio Program				Gallery Program		Event	NETWORK		
		Studio 1	R1	Studio 2	R2	Gallery	Lounge	Talk/Symposium	International	National	Local
Jan.	5	Stina Fisch (Luxembourg) 12. 1-1. 31 * O.S. 1. 18		Neil Malone (Australia) 1. 3-3. 31		Kyougo Matsumoto *Gallery Residence 12. 23-1. 30 * Exhibition 1. 14-1. 29		1.14 Matsumoto			Art Kids 1. 14
	10										
	15										
	20										
	25										
Feb.	5	Amanda Rizzo (France/Iceland) 2. 1-3. 31				Aya+Kaoru Murakami 2. 2 - 2. 19 Shirley Cho 2. 22-3. 4 Akira Mori 3. 11-3. 17		2.12 Murakami			Art Kids 2. 11
	10										
	15										
	20										
	25										
March	5	* O.S. 3. 15-25		* O.S. 3. 11-25				3.4 Cho 3.18 Mori			Art Kids 3. 10
	10										
	15										
	20										
	25										
April	5	Bart Benschop & Leontine Lifferring (Netherland) 4. 4-6. 29		Saran Youkongdee (Thailand) 4. 2-5. 30		Group Exhibition (Juka Araiawa, Krister Olsson, Mike HJ Chang, Xana Kudrjavcer- DeMilner, Yvan Martinex and Joshua Trees) 4. 4-29 Utako Watanabe 5. 2-13 Chika Kato curated Exhibition 5. 16-27 Naoki Miyasaka 6. 2-10 Project (Elizabeth Presa, Thea Rechner, Gaku Tutaja, Utako Shindo) *work in progress 6. 13-7. 15 *exhibition 7. 18-29		4.15 Micro AIRs 4.21 Juka etc 5.6 Watanabe 5.20 Micro AIRs 6.9 Miyasaka 6.20 Benschop etc 6.24 Micro AIRs	UK・PSQT (Masami Aihara & Tahahiro Ishii)	JENESYS at youkobo	Art Kids 4. 14
	10										
	15										
	20										Trolls Spring Exhibition 4. 28-5. 6
	25										Art Kids 5. 12
May	5										
	10										
	15										
	20										
	25										
June	5	*O.S. 6. 20-24 Sound Performance (Marcos Fernandes)		Christof Schlegel 6. 18-7. 31 Almut Rink 7. 16-30 (Austria)		Project (Elizabeth Presa, Thea Rechner, Gaku Tutaja, Utako Shindo) *work in progress 6. 13-7. 15 *exhibition 7. 18-29		6.20 Benschop etc 6.24 Micro AIRs	JENESYS at Studio kura	JENESYS at Studio kura	Art Kids 6. 2
	10										
	15										
	20										
	25										
July	5	Catalina Tuca (Chile) 7. 3-9. 30		Jeremy Bakker (Australia) 8. 1-9. 30		closed Natsumi Skamoto 8. 29-9. 2 Jouji Satou 9. 5-23		7.27 Rink etc 7.28 Shindo etc	HammerHead Studio (Studio Jean & Youkobo) *on going till 2014 * September 2012 OpenStudio	HammerHead Studio (Studio Jean & Youkobo) *on going till 2014 * September 2012 OpenStudio	Art Kids 7. 14
	10										
	15										
	20										
	25										
Aug.	5	*O.S. 9. 12-23		*O.S. 9. 19-23		closed Natsumi Skamoto 8. 29-9. 2 Jouji Satou 9. 5-23		9.8 Sato 9.21 Tuca, Bakker, Sato	UK・WEYA (Takumi Kato, Manabu Kanai, Naoki)	GTS (Sam Stocker) 10. 10-11. 11	Art Kids 9. 8
	10										
	15										
	20										
	25										
Sep.	5										
	10										
	15										
	20										
	25										
Oct.	5	Julie Upmeyer (Caravansarai/ Turkey) 10. 2-11. 30		Francisco Guevara (Arquetopia/Mexico) 10. 1-11. 2 *O.S. 10. 20- 11. 4 Anat Litwin *O.S. 11. 10-23 (HomeBase/ Germany) 10. 21- 11. 3-27 Group Exhibition (Emu Nagasaka etc) 11. 30- 12. 9		Curated Exhibition (Yoshiko Maruyama, Kyougo Matsumoto, Saran Youkongdee) 10. 4-14 Micro Intro Exhibition 10. 20-11. 04 Curated Exhibition (Masami Aihara, Takahiro Ishii) 11. 10-23 Group Exhibition (Emu Nagasaka, Yukako Izawa, Kyoko Shindo, Natsuno Yoshikaw) 11. 30-12. 9 Report Exhibition (Takumi Kato, Manabu Kanai, Naoki Miyasaka) 12. 12-16 closed		10.4 Maruyama, Matsumoto etc 10.20 Francisco 10.3 Micro Directors Talk 11.10 Upmeyer, Aihara, Ishii 10.23 Litwin 12.2 Nagasaka etc 12.12 Kato etc	Portugal (Mitsumasa Kadota) Res Artis GM in TOKYO 10. 25-28 Taiwan (Natsumi Saskamoto) Yorii Project (Marte Kiessling, Vivian Gernaert, Takahiro Ishii) *preparation Nov-Jan *production Feb-March	GTS (Sam Stocker) 10. 10-11. 11	Art Kids 10. 13
	10										
	15										
	20										
	25										
Nov.	5	O.S. 11. 10-23									
	10										
	15										
	20										
	25										
Dec.	5	Nicholas Bastin (Australia) 12. 3-2. 27									
	10										
	15										
	20										
	25										

→ "MICRORESIDENCE!" special program period



Kingdom of the Netherlands



遊工房アーツスペース 年間報告 2012

編集:

遊工房アーツスペース

発行:

遊工房アーツスペース

〒167-0041 東京都杉並区善福寺 3-2-10

TEL: +81-3-5930-5009

FAX: +81-3-3399-7549

E-mail: info@youkobo.co.jp

URL: www.youkobo.co.jp www.artinparks.net/

2013 年 3 月発行、©遊工房アーツスペース